該当しないものは線で消してください。

ばい煙・粉じん発生施設設置（使用、変更）届出書

令和○年○○月○○日

千歳市長　　様

押印は不要です。

届出者　〒066-○○○○
住　　所　千歳市○○町○丁目○－○○
氏　　名　○○株式会社
代表取締役　○○　○○
電話番号　0123-○○○○-○○○○

該当しないものは線で消してください。

千歳市公害防止条例第22条（第23条、第24条）の定めにより、ばい煙、粉じん発生施設について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	○○株式会社 ○○温泉	※受理年月日	年　月　日
工場又は事業場の所在地	千歳市○○町○丁目○－○○	※整理番号	号
資本金額又は出資金額	2,000千円	※工場・事業場番号	号
就業者数	25人	※審査結果	
業種	浴場業	ばい煙、粉じん発生施設の種類	2　風呂ガマ
敷地面積（建築面積）	7,500㎡（2,500㎡）		
用途地域	準工業地域	ばい煙発生施設の構造及び使用の方法	別紙１のとおり
主要製品名		ばい煙の処理方法	別紙２のとおり
操業期間	通年	粉じん発生施設の構造使用及び管理の方法並びに粉じんの処理の方法	
作業時間	10：00～21:00		
公害防止担当部課責任者氏名	○○部○○課	課長　○○　○○	電話番号0123-○○-○○○○

備考　1　ばい煙、粉じん発生施設の種類の欄には、千歳市公害防止条例施行規則別表第１及び別表第２に掲げる項番号及び施設名を記入してください。

2　この届出書は、指定施設の種類ごとに作成します。

3　変更届の場合には、変更のあつた部分について、変更前の内容を上段にカツコ書きで対照させて記入してください。

4　※印の欄は記入しないでください。

別紙１　ばい煙発生施設の構造及び使用方法

項目		記入欄１	記入欄２
工場又は事業場における施設番号		1	
名称及び型式		ガス風呂釜　ABC-123-D	
設置年月日		令和〇年〇〇月〇〇日	年　月　日
着手予定年月日		年　月　日	年　月　日
使用開始予定年月日		令和〇年◆◆月◆◆日	年　月　日
規模	燃料の燃焼能力（重油換算L／h）	60.0 m^3N/h（37.5 L/h）	
	火格子面積（m^2）		
	焼却能力（kg／h）		
使用状況	１日の使用時間及び使用回数等	10：00～21：00　30日／月 11時間／回　1回／日	：　～　：　日／月 時間／回　回／日
原材料	種類		
	使用割合		
	１日の使用量（t／日）		
燃料	種類	13A	
	燃料中の成分割合（%）	灰分 0%　／　いおう分 0%	灰分　／　いおう分
	発熱量（MJ/m^3）	高位発熱量：45.0MJ/m^3 低位発熱量：40.6MJ/m^3	
	通常の使用量（L／h又はkg／h）	35.0 m^3N/h （最大60.0 m^3N/h）	最大 （　　　）
	混焼割合	100%	
排出ガス量（Nm^3／h）		最大1366　　通常820	最大　　通常
排出ガス温度（℃）		100	
ばい煙の濃度	ばいじん（g／Nm^3）	最大　0.01　　通常　0.01	最大　　通常
	いおう酸化物（容量比　ppm）	最大　0　　通常　0	最大　　通常
ばい煙量	いおう酸化物（Nm^3／h）	最大　0　　通常　0	最大　　通常
参考事項	重油の比重、空気比	比重　　空気比	

備考　１　設置届の場合には、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届の場合には、設置年月日の欄に、変更届の場合には、設置年月日、着手予定年月日及び使用開始年月日の欄に、それぞれ記入してください。

２　「燃料の燃焼能力」には、２項施設の場合記入することとし、「火格子面積、焼却能力」には、１項施設の場合記入することとします。

３　原材料欄は、ばい煙の発生に影響のあるものについて記入してください。「種類」には、ばい煙発生施設において使用する原材料の種類及びごみ焼却では、雑芥、厨芥、混合芥等の種類を記入してください。

４　燃料の欄の「種類」には、石炭、重油、ガス等の種類を「燃料中の成分割合」には、灰分、いおう分の割合を重量比％、又は容量比％の別を明記し、「混焼割合」には、重量比％、容積比％の別を明記してください。また「発熱量」には、高位発熱量、低位発熱量の別を明記してください。

５　排水ガス量は、実測値、計画値、燃料使用量からの算出のうち、いずれの方法による値でもよいこととします。

６　排出ガス温度は、原則として排出口におけるものとします。

７　ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とし、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とします。

いおう酸化物（ppm）は、次の式による値とします。

$$\frac{\text{いおう酸化物（}Nm^3\text{／h）}\times 1{,}000{,}000}{\text{排出ガス量（}Nm^3\text{／h）}}=\text{いおう酸化物（ppm）}$$

８　排出ガス量の算式は、次の式による値とします。

$$W〔Go+（m-1）Ao〕=\text{排出ガス量（}Nm^3\text{／h）}$$

W：重油消費量（kg／h）＝最大１時間消費量（L／h）×比重

Go：理論燃焼ガス量（Nm^3／kg）

$$Go=\frac{1.11HL}{1{,}000}\quad \text{HL（低発熱量）}\fallingdotseq\text{高発熱量}-648$$

m＝空気比

Ao：理論空気量

$$Ao=\frac{0.85HL}{1{,}000}+2.0$$

９　いおう酸化物（Nm^3／ｈ）の排出量は、次の式による値とします。

$$0.7\times\frac{S}{100}\times W=\text{いおう酸化物（}Nm^3\text{／h）}\cdots\cdots\cdots\cdots\text{（q′）}$$

〔Ｓ：いおう分（重量%）〕

別紙２　ばい煙の処理方法

項目				
ばい煙に係る処理施設の工場又は事業場における施設番号			煙突	
処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号			1	
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式			煙突	
設置年月日			年　月　日	年　月　日
着手予定年月日			令和○年○月○○日	年　月　日
使用開始予定年月日			令和○年◆月◆◆日	年　月　日
処理能力	排出ガス量（Nm^3／h）	最大		
		通常		
	排出ガス温度（℃）	処理前		
		処理後		
	ばい煙の濃度　ばいじん（g／Nm^3）	処理前		
		処理後		
	ばい煙の濃度　いおう酸化物（容量比ppm）	処理前		
		処理後		
	ばい煙量　いおう酸化物（Nm^3／h）	最大　処理前		
		最大　処理後		
		通常　処理前		
		通常　処理後		
	補集効率　ばいじん（%）			
	補集効率　いおう酸化物（%）			
排出口	実高さ Ho（m）		21.0m	
	頂部口径（m）		○cm×○cm	
補正された排出口の高さ He（m）			21.2m	
排出速度 V（m／s）			0.2m/s	
添付書類	1　工場又は事業場附近の見取図 2　ばい煙発生施設及びばい煙処理施設の設置場所を示す図面 3　ばい煙発生施設及びばい煙処理施設の構造の概略図			

備考　１　補集効率の欄は、次の式により、ばいじんについては重量（%）、いおう酸化物については、容量（%）で記入してください。

$$\text{補集効率（\%）}－\frac{\text{（入口ばいじん量－出口ばいじん量）}}{\text{入口ばいじん量}}\times 100$$

２　頂部口径の欄は、丸型（φ）、角型（□）を明示して記入してください。

３　補正された排出口の高さ（He）は、施行規則別表第７に定める算式により算定したものを記入してください。なお、算定手順は次のとおりです。

$$He = Ho + 0.65\,(Hm + Ht)$$

$$Hm = \frac{0.795\sqrt{Q\cdot V}}{1+\frac{2.58}{V}} \qquad Ht = 2.01\times10^{-3}\cdot Q\cdot(T-228)\times\left(2.30\log J+\frac{1}{J}-1\right.$$

$$J = \frac{1}{\sqrt{Q\cdot V}}\left(1460-296\times\frac{V}{T-288}\right)+1$$

$$Q = W\,[Go + (m-1)\,Ao]\times\frac{273+15}{273}\times\frac{1}{60\times60}$$

$$V = \frac{\text{流量（m}^3\text{／sec）}}{\text{断面積（m}^2\text{）}}$$

$$\text{流量} = Q\times\frac{273+\text{（排出ガス温度）}}{273+15}$$

$$\text{断面積} = \frac{\pi}{4}\times\text{（頂部口径）}^2$$

$$T = 273+\text{（排出ガス温度）}$$